

「御霊の実⑨ 自制」

I コリント 9:23～27

2016.08.07 Alex Tan

1

概観

信仰の歩みは競技場の競走によくたとえられ、完走するために、そして福音のために「自制」が必要である。私たちはゴールを定めて、走るように勧められている。

アウトライン

1. 自制の動機: 福音の恵み V23
2. 自制の目的: 恵みの応答 V24
3. 自制の栄冠: 人格の成長 V25
4. 自制の適用: 自我の服従 V26-V27

2

1. 自制の動機: 福音の恵み V23

- 1) 罪人なのに、愛されて救われている確信。恵みのゆえに、福音のために謙る(V19-22)。自分の自由、こだわりを犠牲にする。
- 2) 福音を周りに合わせて調整しているわけではない。不変の福音のために、自分の関わり方を相手に合わせて自由に変えていく。
- 3) 御国が前進するように、たましいが救われるように献身していく。その恵みにあずかるように。用いられ、恵みをもっと受けるため。

3

2. 自制の目的: 恵みの応答 V24

- 1) パウロはコリントの郊外に、二年ごとに開かれたイスムス競技を実例にこのたとえを説明している。テント作りに励んでいた。
- 2) 信仰を持つことに満足せずに、ただの参加賞に満足せずに、恵みに応答するために戦いつづけ、賞を得るように走りつづける。
- 3) 賞を受けることがポイントではなく、自制して賞を受けられるように勧められている。当時の競技者は、十ヶ月間自分を自制をした。

4

3. 自制の栄冠: 人格の成長 V25

- 1) 偶像にささげられた肉を食べないように。自分の当然の権利を放棄し、相手に合わせる。失格しない、つまずきを与えないように。
- 2) 弱い相手のためだけでなく、クリスチャンとしてふさわしくないものを放棄する。
- 3) 松葉で編んだ朽ちる栄冠⇔朽ちない永遠の栄冠。キリストのようになれる、人格が成長できる、価値観の変化が起きる可能性。永遠の価値観で現在の生き方を大事にする。

5

4. 自制の適用: 自我の服従 V26-V27

- ①V26: 目標を定めて生きる (ピリピ3:13-14)
過去に引きずられないで、わき見をせずにゴールに向かって走る。シャドー・ボックスに終わらないように。聖化=もっとキリストに似ることは、クリスチャンの目標。
- ②V27: 使命に自我を従わせる (ローマ6:17-18)
罪の奴隷→義の奴隷。回心をはっきりさせること、主権は神様にあることを認める。教えの規準=福音に従うこと。自分を打ちたたく。禁欲主義ではなく、福音の拡大のため。

6